

大学コンソーシアムやまがた幹事会（平成27年度第3回）議事録

日 時：平成28年3月2日（水）13：30～14：40

場 所：ゆうキャンパス・ステーション及びテレビ会議

出席者：委員長 安田 弘法（山形大学）

副委員長 井上 元治（米沢栄養大学・米沢女子短期大学）

大川 健嗣（東北文教大学）

委 員 増山 知也（鶴岡工業高等専門学校）

藤原 茂樹（放送大学山形学習センター）

椎名 憲次（山形県）→代理 佐藤圭次

松田 芳徳（産業技術短期大学校・山形校）

柿崎 則夫（農業大学校）

菅原 邦生（山形工科短期大学校）

栗山 恭直（企画会議委員長／山形大学）

欠席者：副委員長 遠藤 節子（東北芸術工科大学）

川崎 正則（保健医療大学）

委 員 柏倉 弘和（羽陽学園短期大学）

玉本 英夫（東北公益文科大学）

伊藤 義彦（産業技術短期大学校・庄内校）

説明者：横井 博（山形人材育成委員会・企画運営部会長／山形大学教授）

陪席者：成田 博昭（山形大学教育・学生支援部長）

事務局：齋藤幸太郎、西田 靖子

議事に先立ち、事務局から、説明者、陪席者及び過半数委員の出席による会議成立の報告があった。

議事

安田委員長から、前回議事録（平成27年9月24日幹事会）の報告と、米沢栄養大学・米沢女子短期大学井上委員と山形工科短期大学菅原委員の二人へ今回の議事録署名人の依頼があった。

また、今回の幹事会から産業技術短期大学校・庄内校の伊藤義彦副校長も幹事会委員として参加してもらうことになったので了承願いたい旨の発言がありました。

【報告事項】

1 山形人材育成委員会の平成27年度活動報告について（平成28年3月1日現在）

山形大学横井教授から資料1及び別紙1から別紙7に基づき、平成27年度に行った活動内容について以下のとおり報告があった。

(報告要旨)

- ・「委員会・部会等の開催」については、総会、各部会併せて12回開催した。
- ・「社会人力育成山形講座の開講」について、28科目を開講し、受講者数は417名、単位互換者数は60名となった。昨年度に比べ減少したが目標値はクリアしている。
- ・「連携取組評価の実施」では、(1)平成27年度連携取組評価の実施については、3月下旬にまとめることになっている。(2)授業参観の実施については、8名の委員に実施してもらった。(3)共同教育評価及び社会人力IR評価については、別紙4と別紙5にまとめたが、学生、教員及び関係者を対象に「授業についてのアンケート調査」の実施、及びその調査結果をIRシステムで分析をして評価を行った。
- ・「共同教育FD事業」では、平成26年度連携取組評価の結果を踏まえ、今後の取り組みをどのようにするか等を議論している。
- ・「共同教育研究会の設置」について、中間評価の留意事項に「社会人力の客観的な評価手法の検討」とあったことを踏まえ、共同教育部会のもとに共同教育研究会を設けて、評価方法のひとつである「ルーブリック」の勉強会、意見交換を行ったもの。
- ・「単位互換制度・広報事業」では、(1)単位互換制度は、遠隔地の交通費の支援制度があり、維持されている。また、広報事業としてはハンドブック作成等を行っている。

以上

(主な意見交換等の内容)

特になし

【協議事項】

1 平成27年度事業報告(案)及び収支補正予算並びに収支決算見込額(案)について

事務局から、事業報告(案)について資料2に基づき以下の説明があった。

(説明要旨)

「大学コンソーシアムやまがたの顔となる事業」について

- ・1の「高等教育山形宣言」プロジェクトは、山形大学2件、山形工科短期大学校1件、計3件の採択・実施となった。
- ・「2 企画会議主催プロジェクト」について、(1)やまがた夜話は、平成27年度は延べ1,354人の参加があった。(2)ビブリオバトル首都決戦2015は、10月24日に山形大学小白川図書館の主催で行われ、山形大学生6名の参加があった。(3)山形大学男女共同参画シンポジウムは、2月4日に米沢市で開催され、本コンソーシアムから西田が参加した。(4)小学生を対象とした体験型学習の開催は、11月15日にゆうキャンパス・ステーションと駅西の芝ゾーンを使って「イヌワシふれあい体験」を開催し、小学生とその保護者約70名の参加があった。(5)プロスポーツを活用した中山間地域活性化活動の開催は、2月20日に山辺町大字大蔵で行い、学生ボランティアとして東北芸術工科大学学生13名が参加した。

「連携事業」について、

- ・(1)単位互換の推進では、単位互換受講者数は前・後期併せて延75人となった。

また、平成26年度から創設されました「履修学生交通費支援制度」を利用した学生は10人であった。(2)大学進学説明会は、27年度は延べ15高校において開催され、うち11校については事務局からも出向いて対応した。

「教職員の交流事業」について

- ・石川県野々市市で開催された「全国大学コンソーシアム協議会総会」及び「全国大学コンソーシアム研究フォーラム」へ事務局長と山形大学学務課長の二人が参加し、他コンソーシアムとの情報交換を行った。

「紀要等の電子化公開支援事業」について

- ・今年度、国立情報学研究所が運営する JAIRO Cloud へ山形大学のリポジトリが移行したことに伴い、加盟機関の紀要等の電子化は行われなかった。また、次年度以降は加盟機関各々でリポジトリを立ち上げていくことになるので本事業は発展的解消となる。

「広報事業」について

- ・パンフレットは、28年度に加盟機関の名称変更が予定されているため、今年度の作成は行わない。

「受託事業」について

- ・先ほど、横井先生から詳細にご報告いただいたので省略。

「協力事業」について

- ・県が開催している「日本一さくらんぼ祭り」へ学生パフォーマンス・やまがたゆうキャンパスステージとして、学生募集の協力を行うと共に当日も事務局から応援に出向いた。

以上

(主な意見交換等の内容)

特になし

次いで事務局から、収支補正予算並びに収支決算見込額(案)について、**資料3**に基づき以下の説明があった。

(説明要旨)

- ・収入に補正はない。
- ・支出で、「教職員の交流・連携事業」では、全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムへの参加旅費が、当初見込みよりかかったため20,000円増額補正した。
- ・「紀要等の電子化公開支援事業」は、資料2の報告のとおりリポジトリの移行により、電子化作業がなくなったため支出はなくなった。
- ・「広報事業」は、資料2の報告の理由から今年度パンフレットの作成をしないため、270,000円の減額補正とした。
- ・「大学コンソーシアム運営費」は、全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムへの参加旅費の増20,000円をこの事項から減額補正とした。
- ・補正額を相殺してプラスとなった300,000円は予備費に計上した。
- ・以上、収入決算見込額11,786,040円から支出決算見込額9,313,385円を差し引いた

2,472,655円が28年度への繰越額となる見込み。ただし、最終決算については、次年度最初の幹事会で報告することになっている。

以上

(主な意見交換等の内容)

Q：確認なのだが、通常なら最終補正を現実に近い額で行い、それを決算見込とするものと考えているが、そのような補正はしない方針できているのか。

補正した予算額を現実的なものにして決算見込額とほとんど変わらないようにするのが、今回の一次補正のやり方だと考える。(藤原委員)

A：総会までにご意見どおりに修正し、総会へ諮ることとする。(事務局)

以上の質疑応答ののち、平成27年度事業報告(案)及び収支補正予算並びに収支決算見込額(案)について、了承された。

2 平成28年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

事務局から、事業計画(案)について資料4及び資料4別紙1について、以下の説明があった。

(説明要旨)

- ・事業計画書1頁目の前文に記載のように、『大学間連携共同教育推進事業については、大学コンソーシアムやまがたの設置目的に極めて合致した事業であることから、最重要事業と位置付けて、強力に実施していく』としている。本事業は、平成28年度が最終年度となる。
- ・「2企画会議事業」は、「やまがた夜話」は引き続き実施したい。また、その他のイベントについても、27年度と同様に4つの事業を展開していく。ただし、ビブリオバトルについては、平成27年度は山形大学生のみの参加であったことから、28年度の状況次第では見直しも必要と考えている。
- ・「連携事業」の(2)大学等進学説明会は、平成28年度の説明会についてはすでに各高校に希望の有無についてアンケート調査を行い、2月末に各大学へ対応の可否について照会している。例年、実施要綱に従いこの時期に行っているため、あらかじめ了承願いたい。
- ・次の(3)は新規事業となる。この「やまがた高等教育職業フォーラム」の開催については、昨年9月の幹事会で山形工科短期大学の菅原委員から、「高校へ進学説明会に向いてもその成果物を見せて説明する機会がないことから、例えば、県内の高等教育機関がどこか一堂に会して、それぞれの学校の特色ある教育内容を示す中で、県内就職につながる高校生の進路選びといったフォーラムを開催できないか。」という提案があり、今回企画書の提案があったもので開催に向けて検討願いたい。
- ・「受託事業」は、大学間連携共同教育推進事業の一部として平成28年度も山形大学から委託される予定である。山形人材育成委員会を中心にして、標記の事業を展開し

ていく予定。

- ・最後の「協力事業」は、県から28年度も協力願いたい旨の連絡があったので、協力事業として挙げている。

次いで、**資料4別紙1**について、企画した菅原委員から補足説明があった。

- ・趣旨は、事務局から説明があったとおりである。学校の教育内容からどのように進路を選択するかについて高校生にわかりやすく説明するためには、私どもはものづくりの学校なので、実物など作品があった方が良いのではないかと考え提案した。方法は、数校の加盟機関の協力を得て、会期は土日か土日を含む数日と想定して、展示物を搬入して、見て触れて体感するという職業選択に資する内容になればと考えている。

このことについて、委員長から今後どのような手順で進むのかとの質問があり、事務局から以下の回答があった。

- ・提案では半分以上の加盟機関から参加となっており、参加機関数が大きな要素となる。また、山形大学工学部のように展示する学科が多い場合のブースの問題などが想定される。今後、菅原委員等と相談しながら時期を含め具体案を作成していくことになるが、今回は実施することについて了承を得たいと考えている。(事務局)

上記ののち、事業計画(案)について以下の質疑応答等があった。

(主な質疑応答等の内容)

Q: ビブリオバトルのことだが、今年度の参加者は山形大学の学生のみであったのか、芸工大の学生は参加しなかったのか。(栗山委員)

A: 6名とも山形大学の学生であった。(事務局)

Q: (やまがた高等教育職業フォーラムについて) 前回から検討され企画されたことに敬意を表したい。できる限り何らかの形で参加したいと考えているが、放送大学は社会人を対象としていることから、就職対策をほとんど行っていない。ただ、中には就職を目的とする学生もいるので、プロセスとして各大学の職員が企画に参加できるようなシステムを構築してもらいたい。(藤原委員)

A: 了解した。(事務局)

Q: 高校生は進学校、職業校関係なく全般と考えて良いか。(栗山委員)

A: 全般と考えている。(菅原委員)

以上の質疑応答ののち、平成28年度事業計画(案)について了承された。

次いで事務局から、平成28年度収支予算(案)について、**資料5**、**資料6**及び**資料7**により以下の説明があった。

(説明要旨)

平成28年度機関負担金（会費）（案）

- ・機関負担金（案）について、（学生収容定員1人当たりの）単価は変えていない。
- ・28年度は4つの機関で収容定員に増減があることから、27年度に比べ6,768円の増額となっており、合計は4,305,851円となる。

平成28年度ゆうキャンパス・ステーション運営費負担金

- ・ゆうキャンパス・ステーション運営費負担金（案）は、むらきさわビルオーナーとの交渉により、家賃を3,000,000円から2,000,000円に下げてもらえることになったため、28年度の合計は消費税込みの3,060,000円となっている。

平成28年度大学コンソーシアムやまがた収支予算（案） 資料7

【収入】

- ・「機関負担金収入」は、資料5で説明のとおり4,305,851円を計上した。
- ・「ゆうキャンパス・ステーション運営費負担金」は、資料6で説明のとおり3,060,000円を計上した。
- ・「繰越金」は、資料3の決算報告の額2,472,655円となる。
- ・「受託事業収入」は、昨年度の1,240,000円から900,000円となったが、これは受託事業が最終年度となることから、29年度に向けたハンドブック作成の必要がなくなるためである。
- ・これに雑収入1,000円をプラスした10,739,506円が収入予算額となる。

【支出】 昨年度の大きく変わった点を重点に説明

- ・「大学コンソーシアムやまがたの顔となる事業」の高等教育山形宣言プロジェクトは、昨年度5件750,000円から4件600,000円に減額計上している。
- ・「連携事業」は、やまがた高等教育職業フォーラムを新規事業として200,000円計上した。内訳は会場借上費及び消耗品を見込んだものである。
- ・「教職員の交流・連携事業」では、28年度の全国大学コンソーシアム研究フォーラムが広島市で開催されるため、参加旅費170,000円を計上した。
- ・昨年度まで項目としてあった「紀要等の電子化公開支援事業」は、先ほど説明のとおりリポジトリが各機関で立ち上げることになるため、項目からなくした。
- ・「広報事業」では、パンフレット作成のために280,000円を計上した。
- ・「大学コンソーシアムやまがた運営費」では、5段目の事務局運営共通経費を昨年度495,879円から700,000円にしている。理由は27年度コピートナー代がかかり赤字となったこと及びプロジェクターが1台壊れ修理費が必要となるために増額とした。
- ・「ゆうキャンパス・ステーション運営費」は、ゆうキャンパス・ステーションの借料を年額2,000,000円にしてもらったことから消費税込みで2,160,000円を計上した。
- ・「大学間連携共同教育推進事業」は、受託額900,000円を会議費等でそのまま計上している。

以上の内容から、合計10,739,506円が支出予算となる。

以上

(主な質疑応答等の内容)

特になし

以上の結果、平成28年度収支予算(案)は承認された。

3. 平成28年度「高等教育山形宣言プロジェクト」支援助成金交付要綱(案)について

事務局から、平成28年度「高等教育山形宣言プロジェクト」支援助成金交付要綱(案)について、資料8に基づき以下の説明があった。

(説明要旨)

- ・本要綱(案)は、毎年この時期に幹事会へ諮っているもので、修正箇所は年度及び実施期間の修正のみで内容の修正はない。
- また、様式については、支援助成の趣旨に沿った支出内容であるか確認しやすくするために、記入例の内訳を詳しく書いてもらえるように整理したもの。

以上

(主な質疑応答等の内容)

特になし

以上の結果、平成28年度「高等教育山形宣言プロジェクト」支援助成金交付要綱(案)は、承認された。

また、委員長から、要綱の内容が期間の修正等で内容が変わらないのであれば、毎年会議に諮らなくともよいようにそのまま更新できる工夫をしてはどうかとの指示があり、改善することとした。

【その他】

1 ゆうキャンパス・ステーションについて

委員長から、今年度のゆうキャンパス・ステーションの経緯について説明があり、県から新たに情報提供があったことについて、事務局から以下の説明があった。

(説明要旨)

- ・県総務部学事文書課の佐藤課長補佐を通して、「生涯学習センター(遊学館)」の改修が予定されており、その際にゆうキャンパス・ステーションを遊学館に移転することを検討してはどうかとの情報をもらった。2月29日に県庁へ出向き、話を聞いてきたので報告する。
- ・山形県立図書館活性化検討委員会が策定した「山形県立図書館活性化基本計画(案)」において、「大学コンソーシアムやまがたや大学等との連携・協働により、講座やゼミ、サークル活動等での利用促進を図る。」ことが掲げられており、改修時期に合わせて大

学コンソーシアムやまがた（ゆうキャンパス・ステーション）を「遊学館」に置いて、活性化を図ってもらえないかという話であった。

(1)改修等の日程について、現時点ではまだ不明な点が多い。

- ・平成 28 年度 再構築（ゾーニング）
- ・平成 28～29 年度 設計（プロポーザル方式）
- ・平成 29 年度中 改修工事開始（開館しながら）
- ・平成 31 年度中 移転

(2)設置場所について

- ・図面（資料 8）の場所は、現在空いているところで、面積もゆうキャンパスに近い面積であることから参考までに示しているもの。
- ・研修室等も改修予定で、設計次第で大幅に変わることもある。
- ・移転の意思があれば面積も考慮できるかもしれない。

(3)維持費等について

- ・図面の場所の借料等が 1 頁に掲載されている参考金額で、やまがた夜話を研修室 2 で行っても年間 100 万円程度となる見込みで、むらきさわビル借料の約半分と見込まれる。ただし、簡単な打ち合わせでもすぐに借りられるか不明なところもあり、また、別途使用料が生じる可能性がある。
- ・借料等の減免措置はこれから検討となる。本コンソーシアムの加盟機関の半数が県立機関なので減免の可能性はあると思われる。

(4)駐車場について

- ・有料の立体駐車場がある。ただし、現在、遊学館の図書館利用者は 2 時間まで無料としているので、例えばやまがた夜話の参加者は無料となる可能性もある。

(5)管理者について

- ・公益財団法人山形県生涯学習文化財団が指定管理者となっている。

以上が聞いてきた内容であるが、コンソーシアムからの移転の有無についての意思表示は、平成 28 年 12 月頃までに願いたい旨であった。なお、本日は、県からの情報提供のみとして、次年度から本会議で検討してもらいたいと考えている。それまで、各委員から質問点、疑問点を出してもらい、県からその回答をもらって幹事会へフィードバックしたいと考えている。

次いで、県の佐藤補佐から以下の補足説明があった。

- ・今回の図書館の改革案は、図書館の賑わいを作り出したいというもので、現在コンソーシアムで行っている「やまがた夜話」などを通じていろいろな人に集まってもらうことが、改革、見直しの方向性と一致すると考えて話があったものである。

委員長から、不確実な部分もあるが、ゆうキャンパス・ステーションの借料、光熱水料及び夜話の開催をしても、約半分の経費で済むということである。また、事務局からの説明にもあったように今年 12 月末までに最終決定をすればよいということなので、今後、幹事会、総会等で提案しながら検討したい旨の話があった。

このことについて、以下の質疑応答等があった。

(主な質疑応答等の内容)

Q：これまでの経緯の中で、県知事等へ要望書を出すといった議論があったと思うがどうなったのか。また、県から提案があったこととの関わりについて教えてもらいたい(井上委員)

A：要望書(案)までは作成したが出してはいない。理由はその途中で県から情報提供をもらい、その内容を判断してからでも遅くはないと考えたからである。また、本情報は会長にも話をしており、総会にも情報提供をする予定である。(事務局)

以上

【配付資料】

資料 No. なし

- ・ 幹事会委員名簿
- ・ 大学コンソーシアムやまがた会則
- ・ 平成27年度 大学コンソーシアムやまがた幹事会(第2回)議事録(平成27年9月24日開催)

資料1 平成27年度山形人材育成委員会事業報告書(平成28年3月1日現在)

(別紙1) 平成27年度山形人材育成委員会 各部会議事録

(別紙2) 平成27年度「社会人力育成山形講座」の開講状況報告

、 平成26年度「社会人力育成山形講座」の開講状況報告

平成25年度「社会人力育成山形講座」の開講状況報告

「社会人力育成山形講座」の年度別開講状況比較表

(別紙3) 平成27年度連携取組評価事項

(別紙4) 平成27年度授業についてのアンケート調査(平成27年10月30日現在)

(別紙5) 平成27年度前期社会人力IRシステムの分析結果について

(別紙6) 社会人力育成山形講座FD研修会

(別紙7) 共同教育研究会について

資料2 平成27年度大学コンソーシアムやまがた事業報告書(案)

資料3 平成27年度大学コンソーシアムやまがた収支補正予算並びに収支決算見込額(H28.2.17現在)(案)

(参考1) 平成27年度大学コンソーシアムやまがた機関負担金収支決算書(案)

(参考2) 平成27年度大学コンソーシアムやまがたゆうキャンパス・ステーション運営費収支決算書(案)

(参考3) 平成27年度山形人材育成委員会収支決算書(案)

資料4 平成28年度大学コンソーシアムやまがた事業計画書(案)

(別紙1) 「やまがた高等教育職業フォーラム(仮称)」企画提案書

資料5 平成28年度機関負担金(会費)(案)

資料6 平成28年度ゆうキャンパス・ステーション運営費負担金(案)

- 資料7 平成28年度大学コンソーシアムやまがた収支予算書(案)
(参考1) 平成28年度大学コンソーシアムやまがた機関負担金収支予算書(案)
(参考2) 平成28年度大学コンソーシアムやまがたゆうキャンパス・ステーション運営費収支予算書(案)
(参考3) 平成28年度山形人材育成委員会収支予算書(案)
- 資料8 平成28年度「高等教育山形宣言プロジェクト」支援助成金交付要綱(案)
- 資料9 ゆうキャンパス・ステーションについて
(生涯学習センター)

議事録署名人

山形大学理事・副学長

安田弘法 

山形県立米沢栄養大学／山形県立米沢女子短期大学
事務局長

井上元治 

山形工科短期大学校
准教授

菅原邦生 